

常盤御前と三人の子ども（菟田野松井・下芳野）



▲常盤御前の腰掛け石

▼(白丸)常盤屋敷

▼(黄丸)常盤井戸



常盤御前は、平安時代末期の女性。源義朝の側室で、今若・乙若、牛若の三人の子どもをもうけました。

この親子の物語は、のちの『平治物語』や『義経記』などにも記されており、市内にもいくつかの伝説が残されています。

平治の乱（1159年）で夫の源義朝が敗れたため、常盤御前は、幼い三人の子どもを連れて都（京都）から大和の山中、竜門牧（大宇陀牧）へと逃げました。この後、竜門牧から芳野へと移ったといわれています。

菟田野下芳野には、今も「常盤井戸」「常盤屋敷」「常盤田」などと呼ばれるところや、常盤御前らを匿ったという旧家があります。

菟田野松井には、道の傍らに「常盤御前の腰掛け石」と呼ばれている大きな石があります。親子が竜門牧から芳野へと逃げる時、常盤御前がこの石に腰をかけたといわれています。牛若（のちの源義経）を胸に抱いた常盤御前と二人の兄がこの石に腰を掛け、しばらく休んだのでしょうか。

今日の
Pick Up

県高齢者美術展入賞

高齢者の社会参加と、生きがいづくり推進のため、第49回奈良県高齢者美術展が開催され、「工芸」、「書の部」において入賞された3人の受賞者が、金剛市長を表敬訪問されました。今後も、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

受賞者の皆さん

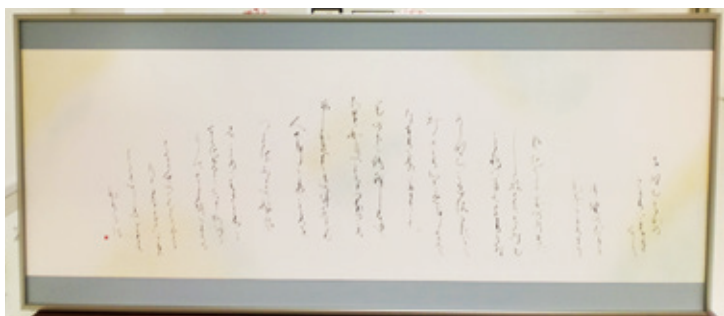
- 【最優秀賞 書の部】黒田 節子さん（榛原）
- 【銅賞 書の部】岡田 鎮也さん（榛原）
- 【銅賞 工芸の部】鍵谷 憲治さん（室生）



▲左から鍵谷さん、黒田さん、岡田さん



▲鍵谷さん「春日大社」
銅賞（工芸の部）



▲最優秀賞（書の部）黒田さん「吉野山」



▲銅賞（書の部）岡田さん
「山のあなたの空遠く（上田 敏 海潮音）」

